

2021年6月7日(月)

## 旧東海道ブラ歩き(4) 神奈川—戸塚

今日は神奈川宿から開始、保土ヶ谷を経て戸塚宿で終了、次回は戸塚から藤沢、さらに平塚を目指す。前日にこの道の先達の会社同期の吉田さんの東海道走破記録を送って貰い予習の上で出かけた。

自宅を9時半少し前に出て横須賀線で横浜まで行き、京急線に乗り換えて一駅戻って神奈川駅で下車、前回終了時点の本覚寺からスタート。暫く歩くと料亭田中屋の前を通る(写真1、2)。なかなか風情があるが、案内所ではここは台町茶屋町跡とあるが、そこにある案内板では1863年創業以来神奈川宿で現在も営業中の唯一の料亭で、この前身は旅籠「さくらや」と言い広重の浮世絵に描かれた由。ハリスや高杉晋作も訪れたとある。幕末の雰囲気想像させる場所だ。なお、広重は当然ここ以外にも東海道の至る所で出てくる。彼は東海道をどの位の時間で歩いたのだろうか。なお、江戸時代には神奈川宿からすぐ眼下に現在の横浜を一望できたとのこと、今は残念ながら全く見えない。

保土ヶ谷宿で金沢横町道標が4つ並んでいるのを見る。金沢、八王子、杉田、鎌倉等への分岐点のようだ。ここでお昼になったので娘の勧める「宿場そば」で芝エビ天せいろを食べる(写真3)。畳の席だったので家内共々食べ終えて立ち上がるのが一苦労だった。ここは宿場そばと言うだけあって保土ヶ谷宿についての詳しい案内パンフレットが置いてあり、保土ヶ谷についてはこちらを頼りに歩いた。蕎麦屋を出て暫く歩くと駅伝で有名な権太坂にかかる。但し旧東海道の権太坂は駅伝の権太坂とは違う道だが、登りであることは変わらない。歩いている途中に県立光陵高校があり、学生が運動している。若い澁刺とした人を見るのは気持ちが良い。権太坂の頂上には右側に境木地藏尊がありただ眺めただけだったが、解説書ではここから東が武蔵国、西が相模国なので、境という字を用いたそうだ。

ここから焼餅坂、品濃坂を上り下りしてひたすら前進する。横須賀線で言うと東戸塚辺りである。途中ベリー類を栽培している農園があり、お金を払えば自由にもがせてもらえるようだったが、体力保持のため寄り道はせず。この辺りは昔はずーっと茶屋が続いていたようだが、今は住宅地で、コンビニも1軒もない。横浜の元町に品濃屋という洋品屋があり、亡くなった妹の雙葉時代の友達のお母さんがやっていたが、この人たちは品濃坂辺りの出身かもなどと思いながら歩く。愈々戸塚宿に入る。この日はカンカン照りで持参した麦茶で何度も水分補給をし、腕には日焼け止めを塗るが、じりじり焼ける。大分疲れてきたのでどこかで一休みしたいがどこまで行っても何もない。戸塚駅に近づいたところにブリジストンの工場があるが、その近辺で漸くファミリーマートがあったのでアイスクリームと麦茶を購入し、店内の簡易食堂のようなところで一休み、何しろ保土ヶ谷から戸塚は随分遠い。昔の人は早朝

日本橋を発って夕刻戸塚宿に着くというのだからたいしたものだ。尤も明治になっても志賀直哉の随筆などを読むと江ノ島まで歩いて遠出し、その途中横浜に寄って輸入自転車を見たなどあるので、人々が歩かなくなったのはごく最近のことかも知れない。

この休憩で息を吹き返し、途中戸塚一里塚跡を横目に見ながら専ら戸塚駅を目指す。既に16時半を回っており、その先の藤沢宿まで足を伸ばすのは到底無理と諦めた。その途中で吉田大橋という大きな橋を渡ったが、実はこれは戦後に掛け替えられたもの。江戸時代のこの橋は広重の浮世絵にも描かれたようで、建て替えられた橋に広重のその絵を模したものが組み込まれている（写真4）。最後は戸塚駅構内の店でレモネードを注文したが一気に飲んでしまった。やはり相当汗をかいたようで水分補給になったようだ。

戸塚発16時50分の湘南新宿ラインで西大井まで直行。下車後家内と駅前のマクドナルドでコーヒーを飲みながらのんびりして18時前に帰宅した。今日の歩行は3万歩強といったところ。どこを歩いてもどんどん若い人に抜かれるが、いちいち気にしない。高齢の夫婦としては細く長くで続けようと思う。



写真1 料亭 田中屋

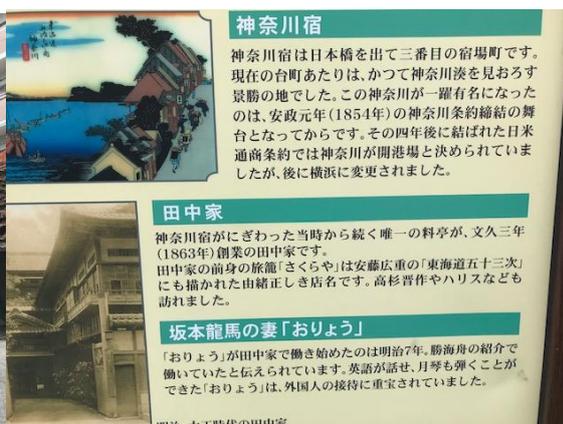


写真2 田中屋の案内



写真3 保土ヶ谷の「宿場そば」



写真4 吉田大橋上で